

《利用状況 案内板 (☆募集中★満員)》
 ☆ナイス・ケア ☆=利用者さん募集中
 ☆ナイス・デイ (定員 10名)

日	月	火	水	木	金	土
4	7	6	4	5	5	7

 ☆ナイス・ホーム (定員 21名、現在登録者 19名)
 ☆愛宕の家 (定員 17名中入居者 16名)
入居の問い合わせ・見学お待ちしております。
 ☆つしま紹介所 (有料職業紹介)
 ☆ナイス・キッズ (学童保育・託児)
 ~参考にご利用ください~

《12月行事予定》
 1日 祖父江銀杏まつり
 10日 外出デイ
 20日 避難訓練
 大掃除開始
 23日 誕生日会&
 クリスマス会
 30日 餅つき
 31日 大晦日

《不定期行事》
 天気や意欲等で状況判断し、外出先一覧を参考に社会生活に参加します。

《教室案内》
 ・和太鼓 月曜日(年間 35回)
 場所:愛西市川淵コミュニティ
 ・コーラス 水曜日(月 2回)
 場所:喫茶てのひら
 ※職員やキッズ達の趣味活動を兼ねて各教室を発足。地域の方々にも参加していただけます。
 各教室月謝制で、定員あり。
 詳細はお問い合わせ下さい。

老いるということ／愛宕の家
 私は“愛宕の家のお母さん役”として、日中の訪問介護や通所介護、看護師と連携をとる立場にいる。愛宕の家に入居された当初は歩いての方が老化と共に車いすを使うようになったり、意思疎通が出来て昔話の会話も楽しめていた方が認知症の進行等によりそれらが出来なくなるという方も多いが、少しでも穏やかな時間を過ごせるように日常生活のお世話をしている。
 そんな中、ご飯が食べられなくなった入居者様がみえた。1食や2食なら、お腹が痛いのか？排便がないのか？などと想像してみるが、毎食が何日も続くと流石に心配。痩せてきてしまう。排便もあり、腹痛もなさそう…。認知症から食事への関心、認識が薄くなってしまったのかも…。良く歩いてみえたのに、立つ事もままならなくなってきた。どんどん心配になっていく私。これを自然な衰えと受け止めればそうなのかもしれない。ただ一緒にいる時間が長くなることで老化だと割り切れない自分があることに気が付く。もっと食べて、じゃないと死んでしまう…。という気持ちさえ出てくる。そんな時は、愛宕の家に関わるスタッフや面会に来て下さる御家族、ケアマネさん達と話をすることで、小さな空間での多職種意見に耳を傾ける。そうすることで愛宕の家のお母さんとしても気持ちを整理していくことができる。
 本人や家族の想い、そして職員の想い、そして他の事業所(主に居宅事業所)からの視点を共有できる空間(愛宕の家)を大切にしたいと思う。ちなみに、この94歳の入居者さん、今は元気一杯モリモリとご飯食べられます。
 皆で、「あーしたら？こーしたら？」って話し合っただけ良かった。(K・T)

小さいお母さん／ナイス・キッズ

先月は大人と子どもの相互関係の話を掲載しましたが、今回は子ども同士のお話♪
 丁度一年ほど前、2歳時のK君が毎週土曜日、キッズ利用になった。魔の2歳児。やんちゃになりつつ、危なっかしくて目が離せない。自我も芽生え始める頃…。こりゃ大変だ！大きい子達はすっかりとキッズから巣立ち(?)、いつの間にか一番お姉ちゃんになったSちゃん。Sちゃんの“小さいお母さん”生活が始まった。
 走り回るK君を追いかけ、ご飯を食べさせ、抱っこし寝かしつけ、根気良くK君の面倒をみているSちゃんの姿は微笑ましくもあり、スタッフにはありがたくもあった。



そんな風にして、じーちゃんばあーちゃんたちの中で“小さいお母さん”と過ごしてきたK君は、“小さいお母さん”が居た事で、「ここで遊んでもいいんだ」という安心感が芽生えた。今ではデイやホーム、愛宕の家で臆することなく、思うままに過ごしている。もう一人でも平気♪
 Sちゃんも“小さなお母さん”を全うした事で、お姉ちゃんの自覚と自信が付き、今は習い事にのめり込む毎日を過ごしている。お互いに必要な時期だったのだと今思う。

その時、その時期に必要な人と人との関わりが自然に持てる環境で子どもも大人も成長しているのだと感じた。(R・W)

身も心もリラックス／ナイス・デイ

ナイス・デイは開設当初から、お風呂はずっと個浴で対応している。見守りの方も重度の方も機械は一切使わず人力…。どうやったら不安なく気持ちよく入っていただけるか？日々勉強。服を脱ぐ時は「家に入る！」と、あんなに格闘したのに、湯船に入ってしまうば夢ごちの方…。またある利用者さんは、利用当初は『機械浴しか入ったことないからここは怖い！』と…。しかし、今では『お風呂はここでないとダメ♪』とまでに言われるようになり、私たちスタッフの喜びもひとしお。また、浴室は利用者さんとスタッフの対一の唯一のコミュニケーションの場でもある。今後もゆったり、ゆっくり快適なお風呂に入っていたら、身も心もリラックスしてもらいたいものだ。(M・O)

祖父江銀杏祭り



外部研修で気付かされた！／アセッサー(評価者)

私はキャリアパス段位制度を活用して、会社のスタッフへ介護技術の教育・評価・指導をするという立場(アセッサー=評価者)を任されている。
 先日、“介護技術の教育、指導、評価の方法”という外部研修に参加した。グループワークでは『ベッドから食堂までの介助方法を指導する場合に職員にどんな声掛けや技術指導の段階を踏むことが必要か』というものを検討した。職員へ指導するのに、これだけの言葉を発する必要があるのだと思い知らされた。アセッサーとしての私がスタッフへ伝えている言葉はなんと少ないものか。
 日々、指導者としてスタッフに伝えているつもりでも伝わっていない。どんな風に伝えればいいのかと葛藤していたが、まずは具体的な言葉で伝える事が大切だと学んだ。そして技術だけの指導ではなく利用者さんの状況を踏まえながら利用者さんへの配慮やその時に必要な声掛けが伴っているのかも伝えていかないということを痛感した。
 またキャリアパス段位制度の評価項目の内容が現行の初任者研修(ヘルパー2級研修相当)の評価項目と酷似していた。つまり、初任者研修修了者を育てることと同じだと捉えなければいけないということだ(汗)。
 OJT(職場で従業員の職業教育をすること)という環境と時間を与えられ、その場面場面で直接伝えられることは貴重な時間である。人と人との関わりだから一つの枠に当てはめることはできない。だけど、介護職に携わる人としての道筋になるようなアセッサーになれるよう頑張りたい。(H・O)

一緒にクリスマスの飾りつけ



戸惑い／ナイス・ケア

Oさんは今まで要支援2。週3回各1時間のサービスを利用してみえました。サービス内容は浴室掃除を含め、室内の掃除や洗い物など。調理は主に自分でされますが、手首の骨折後は力が入りづらくなってしまい、硬い野菜を切っただけと頼まれることもありました。次の訪問までに、Oさんは自分で出来る家事をし、また、私たちの訪問で出来なかった部分やOさんが家事をしやすいような支援、というサイクルでした。
 そんな中、11月に介護保険の更新で“総合事業”へ移行となり、1ヶ月の基本として4週、原則週3回、45分/回に変更になりました(注：Oさんが住まう市町村の決まりです)。5週目がある月は想定されていないということです。訪問した場合、完全に事業所のボランティア…。さて、どうしたものかケアマネやOさんと話し合う必要がありますが、私たちヘルパーからの視点で個々の適切かつ必要なサービスは何かを見極め、“総合事業”に移行したからといって本当に回数や時間を減らしていいのか検討しなければいけません。総合事業へ移行してみて具体的な利用方法や対応に利用者の方も私たちも戸惑うことが出てくることに気が付き、今後の課題が明確になりました。(K・N)

介護プロフェッショナルキャリア段位制度進行状況

《段位取得者》1~4期生 (11名)
 《申請中》 5期生 (1名)
 《技術評価中》 6期生 (3名)

《編集後記》今年も一年、通信をご愛読いただきましてありがとうございました。また来年もよろしくお祈りします。(Y・O)

SOS通信はホームページへの掲載と合わせ、地域の関係者や事業所、ご家族様へも発送しています。
 12月の発送部数 105部